

<付録> 年 表

年号 (西暦)	おもなできごと
(縄文時代 早期)	大磯の草分けとなった人たちが住み始めたと思われる(万台遺跡)。
大化 1 年 (645)	相模国造、師長国造、鎌倉別の地を併せて相模の国となる。
霊亀 2 年 (716)	高麗人1,799人を武蔵国に移し、高麗郡を置く。
養老のころ(717~724)	相模国の国府祭が始まる。
天平 7 年 (735)	余綾郡と、その郡役所が国府地区に置かれる。
平安 中 期	寺坂、王福寺の本造薬師如来坐像がつくられた。
天養~保元(1144~1158)	相模国の国府が余綾郡に移る。
建久 4 年 (1193)	曾我兄弟が富士の裾野で、父の敵工藤祐経を討つ。
弘安 5 年 (1282)	国府祭、5月5日に改められる。
永禄 4 年 (1561)	上杉謙信が小田原に攻めるにあたって、高麗寺城を攻め、陣をとる。
慶長 6 年 (1601)	東海道に宿駅の制が定められ、一里塚ができる。
寛文 4 年 (1664)	崇雪が鳴立庵を建てる。
元禄 8 年 (1695)	大淀三千風が鳴立庵を建てる。
享保 17 年 (1732)	享保の大飢饉。国府新宿も凶作にみまわれる。
宝暦 12 年 (1762)	大磯宿、神明町から鳴立沢まで消失する大火。
天保 7 年 (1836)	天保の飢饉で川崎屋などが打ちこわされる。
文久 1 年 (1861)	小野懐之が私塾「秉彝館」を開館。このころ大磯に私塾、寺子屋多し。
明治 4 年 (1871)	渡辺慶次郎(寺坂の人)が日本最初の落花生を栽培する。
明治 6 年 (1873)	大磯小学校の前身「秉彝館」、国府小学校の前身「思文館」を開く。 大磯郵便取扱所が開設される。
明治 7 年 (1874)	金目村に捕亡出張所(大磯警察署の前身)を置き、大磯駅に分派捕亡所を置く。
明治 11 年 (1878)	大住・洵綾両郡役所を大磯駅に置く。
明治 18 年 (1885)	松本順、日本最初の海水浴場を開く。
明治 19 年 (1886)	添田辰五郎(国府本郷の人)がサフランを初めて栽培。
明治 20 年 (1887)	東海道本線、横浜・国府津間が開通、大磯駅もできる。
明治 22 年 (1889)	町村制が施行され、大磯町、国府村が誕生。
明治 23 年 (1890)	大磯町が大火にみまわれる。中川良知町長は、南下町の住民を長者町に移し、町の整備をはかる。